



拝啓

処暑の候、新型コロナウイルス感染症の影響により社会の先行きが見通せない中、皆様におかれましても、さまざまなお気持ちでお過ごしのことと存じます。

2020年2月26日の政府による突然のイベント自粛要請から5月の緊急事態宣言解除まで、わずか数ヶ月で社会は大きく変化し、世田谷パブリックシアターもさまざまな決断を余儀なくされました。公演は相次いで中止となり、劇場には空白の時間が流れました。

世田谷パブリックシアターは、1997年の開場当初より、舞台芸術の作品創造・上演活動と、地域の人々に演劇を活用していく手段や機会を手渡す学芸事業の両輪を掲げ、舞台芸術の可能性や地域社会における劇場のかたちを探ってきました。中でも学芸事業では、舞台芸術の専門家のみならず、世田谷区内施設や団体とも連携しながら、劇場という概念を拡げる独自の活動を展開してきました。

緊急事態宣言中、この困難な状況での事業の再開を模索し、劇場という場を改めて問い直す中、私たちは、こうした時代だからこそ、地域社会に演劇を通じて働きかける学芸事業の意義をさらに実感するようになりました。

これからも継続していく事業、そしてこれからの挑戦。この時代のこの状況だからこそ求められている事業は何なのか、こうした試行錯誤を、今後、『世田谷パブリックシアター学芸プログラム通信』（隔月予定）にまとめ、ご紹介していきたいと考えています。その創刊号となる本号(6月～7月)では、緊急事態宣言が解除された直後の活動をご紹介します。まさに自粛明けの人々の様子、劇場という場の可能性を感じていただけることでしょう。

## 劇場は広場

いつもここで出会う

見知らぬ誰かと

もうひとりのわたしと

ひかりの原で

笑え 歌え 踊れ

## 劇場は広場

いつも ここから始まる

物語の旅と 明日への夢と

これは、世田谷パブリックシアターがエントランスに掲げている言葉です。劇場をどんな「広場」につくりあげていくのか。ぜひ私たちの取り組みをご覧くださいいただければと思います。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

敬具

# 劇場再開後、はじめて行った 演劇ワークショップ 『デイ・イン・ザ・シアター』

世田谷パブリックシアターでは、劇場での「作品創造・上演事業」と共に、地域の方々が主体となって演劇を活用するプログラム「学芸事業」を展開しています。その中で、誰でも参加しやすい1回2時間程度の単発の演劇ワークショップ（以下、WS）として、開場の1997年から継続しているのが『デイ・イン・ザ・シアター』（以下、『デイ』）です。

『デイ』では、年齢も背景も異なる、その日たまたま出会った人々が、演劇WSを通して、自分の考えや意見を交わし、人のいろいろな考え方・感じ方を知り、相手を受け入れること、そこで出てきた多様な意見をみんなで表現へまとめていくことを実践します。従来の演劇観（舞台上で戯曲をもとに俳優が演じる）からは、この一連の行為は演劇と思えないかもしれませんが、そこにいる全員の考えを表現にまとめ、誰かに身体表現として伝える、という意味において、私たちはそれを演劇だと考えています。

『デイ』は世田谷パブリックシアターと共に常に歩んできました。東日本大震災後に、初めて開催したのも『デイ』でした（継続実施の事業を除き）。2011年3月22日、地震の被害や津波、原発、今後の生活のこと、何も見えない中で、人々は集い、集まった一人ひとりが自分たちの感じていることを伝え合いました。2020年5月25日に新型コロナウイルス禍の緊急事態宣言が解除され、一番最初に劇場再開のために着手した活動も『デイ』となりました。

## 2020年6月 『デイ・イン・ザ・シアター』の様子



6/17 (水) 19:00～20:30

緊急事態宣言期間中の4・5月の生活  
(進行役：大道朋奈)

参加者それぞれが、期間中に食べたもの、以前の生活と比べて増えたこと・減ったこと、感じていたことなどを思いつくり挙げて、それらの言葉をラップのように、音楽と共に読み上げました。♪近所の段ボールゴミが増えた、♪孫の入学式がまだだ、♪就職してコロナに関係なく生活が大きく変わった、♪父の給料が減った、♪すき家の牛丼、♪ゴーゴーカレー…音楽にのせてさまざまな日常が語られました。

6/30 (火) 10:00～11:30

折り紙を使って「今の気持ち」を表現する  
(進行役：すずきこ一た)

折り紙を使って、今の気持ち・感情を造形物として表現し、それを稽古場内のしっくりくる場所に配置した後、一人ずつが自分の気持ちを発表しました。その中で徐々に参加者それぞれが互いに理解し合う空気がうまれてきました。それから自粛期間中に出すことがなくなっていた大きな声を出すシアターゲームや、決められた単語だけで二人組で会話をする「言葉の魔法使い」を行い、「声をだすこと」の感覚を取り戻しました。

6月

緊急事態宣言を受け、世田谷パブリックシアターでは4月11日からテレワークが始まりました。その頃までに事前に企画していた事業はすべてキャンセルとなっていました。人と人が出会う場が制限される中、今後、一体、いつから、どんな形であれば事業が再開できるのか、このような状況下で演劇ワークショップを実施する意義は何なのかなど、自問自答する日々を過ごすことになりました。5月に入ると、オンラインでの演劇ワークショップを実践する団体・劇場も増えてきました。5月25日に東京を含む首都圏の緊急事態宣言が前倒して解除され、劇場の再開が予想される中、世田谷パブリックシアターでは、「人が集う広場」に拘ることをスタッフ間で確認しました。実際に人が集うワークショップで何を注意すべきかを検討しながら、少人数開催・マスク・社会的距離、除菌の方法など、一つひとつを決定していきました。「できない理由」ではなく、「できるための方法」を探しながら、「はじめの一歩」としての『デイ・イン・ザ・シアター』がテレワーク終了後（6月15日）すぐ、6月17日から始動しました。参加者募集の告知期間はたったの1週間でしたが、待ち構えていた多くの方々からお申込みをいただき、あっという間に満席となりました。

## おとなデイ

制作  
コメント

参加者の皆さんは自粛期間あけ、初めて人に会うという方も多く、まずは同じ場に「人」がいることに慣れていくことから始めました。私たち制作側も、久しぶりに多くの方々と会い、人と場を共有することの心地よい疲れを思い出しました。驚くことに、言葉を発する際、声を音として発せない参加者もいました。短期間でも人と会えなかったことのリハビリが必要だと感じました。

6/17 (水) 15:00～16:30

子どもの頃の思い出  
(進行役：青山公美嘉)

6/17 (水) 19:00～20:30

緊急事態宣言期間中の4・5月の生活  
(進行役：大道朋奈)

6/18 (木) 15:00～16:30

お金にはならないけれど、普段の生活で人知れずやっていること  
(進行役：田崎葵)

6/18 (木) 19:00～20:30

人が書いた文章から演劇づくり  
(進行役：柏木陽)

6/23 (火) 10:00～11:30

「4・5月をどう過ごしていたか」振り返り、「夏の間にやりたいこと」を表現  
(進行役：とみやまあゆみ)

6/23 (火) 13:30～15:00

お金にはならないけれど、普段の生活で人知れずやっていること  
(進行役：田崎葵)

6/26 (金) 15:00～16:30

俳句で描かれている世界を、小さなジェスチャーで相手に伝える  
(進行役：柏木陽)

6/26 (金) 19:00～20:30

日常で「怖い、不安」と感じる瞬間をどうやって乗り越える？  
(進行役：有吉宣人)

6/30 (火) 10:00～11:30

折り紙を使って「今の気持ち」を表現する  
(進行役：すずきこ一た)

6/30 (火) 13:30～15:00

「しゃべれない」を楽しむ  
(進行役：大道朋奈)

## 中学生デイ 高校生デイ

制作  
コメント

中学生、高校生はおとなとはまた違う社会の見方をしていることを実感しました。この未曾有の事態に対して、彼らは驚くほど順応しているようなことを言うときもあれば、言葉にならないモヤモヤした想いを垣間見ることも多くありました。

6/21 (日) 11:00～12:30 中学生

シアターゲームに挑戦して知らない仲間と知り合おう  
(進行役：大道朋奈)

6/21 (日) 15:00～16:30 高校生

演劇の中に漫画表現を取り入れてみる  
(進行役：柏木陽)

6/28 (日) 11:00～12:30 高校生

「面倒くさいこと」を川柳にして身体で表現  
(進行役：有吉宣人)

6/28 (日) 15:00～16:30 中学生

「夏休みの絵日記」の劇をつくる  
(進行役：とみやまあゆみ)



## おやこデイ

制作  
コメント

マスク着用、三密はダメなど、「してはいけないこと」が多すぎて、子ども対象のWS開催については最後まで悩みました。でも子どもたちにこんな時こそ劇場に来て欲しい。導きだした結論は、保護者と一緒に参加してもらい、感染症対策の協力をしてもらうこと。開催してみると自粛期間中に「親子」の関係に変化があったことに気づく時間となりました。

6/20 (土) 11:00～12:30

絵本の中の「シルクハットぞく」になりきって、ちょっと嬉しくなることをやる劇  
(進行役：有吉宣人)

6/27 (土) 11:00～12:30

「パラバルーン」遊びで交流した後、昔話の絵を身体で表現  
(進行役：すずきこ一た)

6/27 (土) 15:00～16:30

「だれだゲーム」「聖徳太子ゲーム」を楽しむ、桃太郎を身体で表現  
(進行役：田崎葵)



6月に全16回の『デイ』を実施し驚いたことは、たった数か月、社会との関りを失っただけで、こんなにも人は他者への実感を失ってしまう、ということでした。

『デイ』は自己紹介からワークショップ（以下、WS）をはじめますが、人へ届ける声の大きさを忘れていたり、隣の人に拍手を回すというシアターゲーム（拍手回し）では、拍手を受け取って隣の人へ渡すという受け渡しがつまみかかなかったり、他者との距離感を測りかねている様子でした。しかし、WSが進むにつれ少しずつ「人」と「場」に慣れていき、人と関わり話す中で、他者への実感を取り戻していく様子を感じられました。90分のWSが終了した時には、進行役含めすべての参加者が人と関わる疲れを感じているようでしたが、その疲労は1人では感じ得ない、人と関わる喜びでもあったと思います。人と会えない「つかれ」は心身を蝕み、人に会う「つかれ」は心身を蘇らせてくれることを知りました。

会えなかった期間の「空白」を取り戻す必要性と、「演劇」という人が集う場の必要性を感じ、7月の『デイ』をスタートさせました。

## 中高生からおとなデイ

### 制作 コメント

コロナ以前、『デイ』は「どなたでも」参加可能なワークショップでしたが、コロナ以降は、安全面を考えて大人だけに対象を区切って開催していました。7月は、参加者の多くが、自粛明けの生活に慣れてきたこともあり、対象範囲を中学生から大人まで広げました。多世代が場を共有し、協働してつくる演劇の楽しさを改めて感じるとともに、このような場こそ、劇場にはあるべきだと思いました。

7/17（金）15:00～16:30

3つの単語から根も葉もないお話をつくってみよう  
(進行役：柏木陽)

7/17（金）19:00～20:30

自粛期間の典型的な一日を思い出して  
動きや音で表現してみよう  
(進行役：富永圭一)

7/24（金）15:00～16:30

紙飛行機で今、行ってみたい場所に飛んでいこう！  
(進行役：富永圭一)

7/24（金）19:00～20:30

いまの気持ちを折り紙や何でもない言葉で表現してみよう  
(進行役：すずきこーた)

## 小学生と保護者デイ

### 制作 コメント

親子同士は接触OK！なので、近づくことや、接触しても良いルールで、絵本の世界に挑戦しました。親子でああでもない、こうでもない話し合いながら演劇をつくる過程で、今まで知らなかったお互いの良いところを見つけられたようです。身体を通じたコミュニケーションの大切さを改めて感じるきっかけになりました。

7/18（土）10:30～12:00

絵本「ゴムあたまボンたろう」を読んで  
オリジナルストーリーを演じてみよう  
(進行役：青山公美嘉 × 大道朋奈)

7/25（土）10:30～12:00

絵本「りゆうがあります」を読んで  
親子でいろいろな理由を考えてみよう  
(進行役：有吉宣人)



## 中高生だけデイ

### 制作 コメント

中学生、高校生はモヤモヤやイライラを溜め込みながらも、限られた自由の中で最大限に楽しみを発見できる天才です。彼らの際限なく広がる創造力は、私たち大人も巻き込んで色々な場所へあっという間に連れて行ってくれました。

7/19（日）13:00～14:30

妄想夏休み日記から演劇をつくる  
(進行役：とみやまあゆみ)

7/19（日）16:00～17:30

映画プロデューサーになりきって映画チラシをつくってみよう  
(進行役：青山公美嘉)

7/26（日）13:00～14:30

妄想夏休み日記から演劇をつくる  
(進行役：田崎葵)

7/26（日）16:00～17:30

人のために自らやっている行動に肩書をつけて演劇にしてみよう  
(進行役：田崎葵)

### 『デイ・イン・ザ・シアター』進行役]

青山公美嘉（NPO 法人演劇百貨店）／有吉宣人／大道朋奈／柏木陽（NPO 法人演劇百貨店／演劇家）

すずきこーた（演劇デザインギルド）／田崎葵（NPO 法人演劇百貨店）／富永圭一（abofa）／とみやまあゆみ（NPO 法人演劇百貨店）